

みなさん、こんにちは。

11月もあと少し、年末がどんどん近づいていますが、冬の寒さはまだまだ足踏みをしているようです。

1. 学社融合授業「世界はひとつ いのちを見つめて」明石小学校6年生

11月24日(金)は明石小学校6年生52名が、博物館を活用した学社融合授業で平和学習の成果を発表しました。2学期の総合学習で平和について学び、修学旅行で訪れた広島での学習を6つのグループがテーマ別に発表。原爆のおそろしさ 貞子の折鶴 広島再生 アオギリの物語 平和とは 僕たち・私たちにできること
 まとめには、「すすんで声をかけよう・みんなと仲良くなるよう・たくさん話し合おう」など、9つの平和の誓いをみんなで確認しました。



グループ発表



保護者のみなさんも



辰巳利一さんのお話

後半は、博物館ボランティアの辰巳利一さん(75歳・相生町)から明石空襲の戦争体験を聞きました。「1944年1月19日、川崎航空機の工場をねらった空襲がありましたが、その時、私の父は防空壕から他の部署へ連絡に行っていました。最初にいた防空壕に戻った時には全滅していたそうです」「学校の運動場は畑になりました。先生の弁当箱はお米の代わりに入れた雑炊がこぼれないように飯盒でした」「家の前の倉庫にも焼夷弾が直撃し、畑にも2~3本突き刺さっていました」6年生の寺田くんは「明石でも大きな被害があって驚きました。戦争は誰も得をしないし、二度とやってはいけない」と話してくれました。

2. 「武家屋敷と町屋 ~ 最近の調査成果から ~ 」

11月25日(土)は県下全域で発掘調査を進めている兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所の渡辺昇先生を講師に武家屋敷と町屋についての歴史をわかりやすく話していただきました。



渡辺昇氏



出土遺構のスライドを見ながら

「近世の町割りの特徴は細長い短冊型の地割りです。武家屋敷はもともと官舎なので、城主が代わると家臣も一緒に引越することがありました。広さは今のマンション一軒分くらいのところもあります。陶磁器や焼き塩壺などの出土遺物も上級武士と下級武士とでは違いがあります。近世の日本では兵庫津、堺、博多などが貿易で栄えていました。それらの町に対抗するため、明石からは明石焼の播鉢や土鍋を作り、全国に流通させていたことが発掘される遺物からわかります。また、出土するタコツボも全国的には珍しいものですよ」とスライドを交えながら解説されました。「発掘調査でわかってくる城下町の作り方は、これからの町づくりの参考になるはずですよ」とまとめられました。

発掘された明石の歴史展：12月17日(日)まで